



株式会社 三菱東京UFJ銀行



株式会社 三菱東京 UFJ 銀行

http://www.bk.mufg.jp/

所在地：東京都千代田区丸の内 2-7-1

従業員数：33,280 人 (平成 20 年 3 月末、単体)

業務内容：MUFG グループ傘下の中核企業、国内外を問わずグローバルに展開。新分野の開拓・新技術の開発にも積極的に取り組み、お客様の多様なニーズにあわせた高品質な金融商品や、サービスを提供。

ソリューション：

事務ナビ (行内向け事務支援システム)

使用したアドビ製品：

- Adobe® Flex Builder
- Adobe® LiveCycle™ Data Services
- Adobe® Flash® Player

システムインテグレータ：

三菱 UFJ インフォメーションテクノロジー株式会社
http://www.it.mufg.jp/



左：株式会社三菱東京 UFJ 銀行
システム部 営業店システムグループ
調査役

徳間 憲介 氏
右：三菱 UFJ インフォメーションテクノロジー株式会社
営業店チャネル部
主任

土佐 鉄平 氏

使用したパートナー連携製品：

- 日本電気株式会社
SystemDirector Enterprise
- NEC システムテクノロジー株式会社
iBizBlock for Flex

Adobe Flex と Adobe LiveCycle Data Services で エンタープライズ RIA を構築、複雑な銀行の窓口業務を効率化

三菱東京 UFJ 銀行は、行内向け事務支援システム『事務ナビゲーションシステム』の導入に際して、アドビの Flash テクノロジーを活用した RIA (Rich Internet Application) を採用。優れた UI とハイレスポンスな生産性の高いシステムを構築し、2009 年 1 月より国内全店舗で運用を開始しました。事務ナビゲーションシステムの開発に当たっては、NEC が RIA に対応した開発フレームワークと技術サポートを提供し、三菱 UFJ インフォメーションテクノロジー (以下 MUIT) がシステムを構築しました。

会社概要

三菱東京 UFJ 銀行は、2006 年 1 月に東京三菱銀行と UFJ 銀行が合併してできた、国内 786、海外 75 の支店数 (2008 年 3 月現在) を誇るトップレベルの銀行です。

導入のきっかけ

三菱東京 UFJ 銀行は、2006 年の合併に伴い、それぞれの銀行が使用していたシステムや業務フローを統合することとなりました。銀行の窓口業務には、法的知識や高度な事務ノウハウを必要とする手続きが多く存在します。そこで三菱東京 UFJ 銀行は、複雑な事務手続きのオペレーションの平準化とワークフローの厳正化、簡素化などを目的とした事務ナビゲーションシステムを構築しました。

導入の決め手

システム構築を担当した MUIT は、事務ナビゲーションシステム構築検討におけるポイントとして、ユーザビリティに優れていること、共通認証経由による認証が可能であること、1つのオペレーションで複数のホスト取引を自動実行できることなどを挙げました。また導入が容易であることや、生産性や拡張性が高いことなども条件とし、RIA をフロントエンドとしたシステムとすることにしました。そこで様々な RIA 製品を比較検討し、実行環境が無償であること、想定画面が簡単に開発できること、RPC 通信がおこなえることなどからアドビの RIA 開発フレームワーク Adobe Flex を採用しました。

開発時のポイント

- ・開発工数を削減して高い生産性を実現

まず、開発環境である Adobe Flex Builder が持つ豊富なコンポーネント群を活用し、高い生産性を実現。また複数のバックエンドの業務を統合した UI 設計が可能であり、システム利用者の要求にあった業務フローの構築を実現しました。さらに Adobe

諸届ナビシステム メニュー画面



諸届ナビシステム 受付/登録画面



Flex を使った大規模システム開発用フレームワークとして NEC の SystemDirector Enterprise と、Adobe Flex Builder に追加する業務用コンポーネントとして NEC システムテクノロジーの iBizBlock for Flex を利用し、開発工数の削減にも成功しました。加えて、サーバ機能を独立化・汎用化することで、流用性も向上しました。運用開始後の追加開発に際しても、少ない工数で短期間に構築することができました。

・RPC 通信を利用してデータ処理を高速化

クライアント・サーバ間の通信には RPC 通信が必須要件でした。多くの窓口業務では、リアルタイムな処理の確認を必要とします。例えばキャッシュカードの紛失届けがあった場合は、確実に素早くお届けのあった口座を停止しなければなりません。そのためには、口座停止をリアルタイムに確認することが必要となります。そこでサーバとの親和性も高く、高速通信を実現する Adobe LiveCycle Data Services をあわせて採用しました。これにより、データ変更のトラッキング・同期も可能となり、データ処理がスムーズになりました。

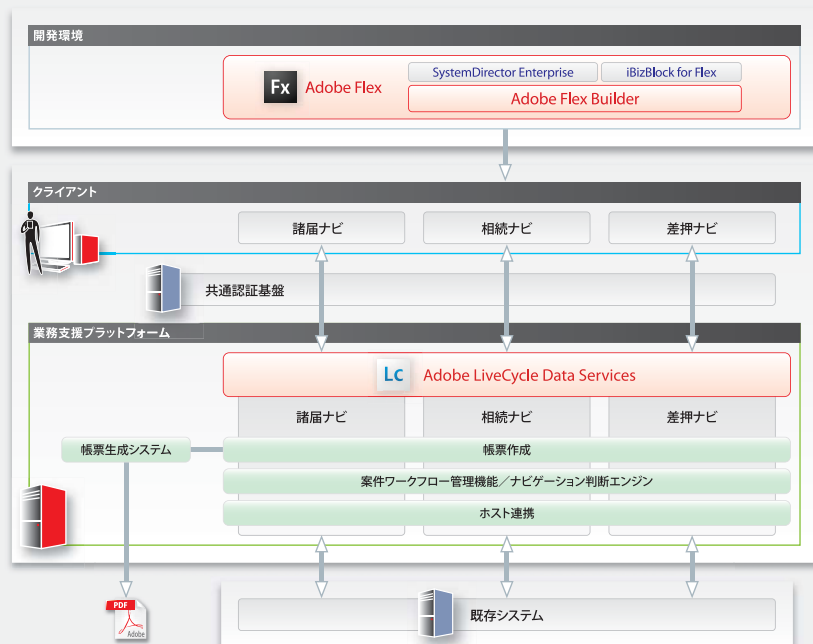
導入効果と今後の展望

RIA を用いたクライアントは、操作性に優れた直観的な UI を実装でき、煩雑だったオペレーションをシンプルにすることができました。従来はテキスト形式だったメッセージ表示をアイコン化するなど、直感的に理解できる画面デザインとしました。また複数連動する業務処理のつなぎ目を意識させないシームレスなオペレーションも実現することができました。事務ナビゲーションシステムの導入前と比較して、同一処理のキータッチ数が半分に以下に減っていることもそれを裏付けています。

事務ナビゲーションシステムの導入により、オペレーターのス��に依存しない事務品質の均一化と業務ス��の平準化を実現しました。あわせて特定の業務において一部の人材へ集中していた負担を軽減することができました。(三菱東京 UFJ 銀行 リテール事務部談)

MUIT は、事務ナビゲーションシステム構築を通じて得た複雑事務オペレーションなどに関する様々なノウハウや、エンタープライズ RIA に関する生産性の高い設計・開発手法などを活かし、今後その他のシステム開発にも適用していきたいと考えています。(三菱 UFJ インフォメーションテクノロジー談)

システム構成



アドビシステムズ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.com/jp

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA
www.adobe.com

Adobe、Adobe ロゴ、Flash Player、Flex Builder、LiveCycle Data Services は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

© 2008 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.
ASJST804 10/09

